

# 2015 年度 センター試験 英語リスニング(本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 30 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：25 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	○ あり ● なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	
<p>総評                  問題の分量、形式に大きな変化はなかった。放送された英語は、聞き取り易い標準的なアメリカ英語であった。難易度について、やや難しい問題がいくつかあったが、平易な問題も多かったため、全体としては昨年と比べて大きな変化はなかったと言える。高得点を狙うには、文字だけに頼らず、音声を自分の口と声を使って正確に再生する練習をすること、口語表現に慣れること、さらには、正確な発音を身につけておくことが重要である。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	短い対話を聞き、答えとなるイラストや数値を選ぶ問題	12 点	倍数表現や計算が出題された問 3～5、ケーブルとマウスの位置関係を瞬間的に理解しなければならない問 6 がやや難しかった。数字に関する表現や、簡単な計算問題で確実に得点するために、普段から十分練習（長めの英文を口頭で正確に繰り返す練習）しておくことが重要だ。
第 2 問	短い対話を聞き、続く応答を選ぶ問題	14 点	例年通り、最終の発言をしっかりと聞き取ることがポイント。今年は、最終の発言部に固有名詞が入っていた問 8、最終の発言部が長かった問 10 が難しかった。長めの英文を、聞きながら理解する練習をしておくことが必要。
第 3 問 A	A 対話を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	聞き取る英語の 1 文 1 文は、第 1 問、第 2 問と比べむしろ短く、落ち着いて聞き取ることがポイントだった。問 15 は、数字の聞き取りという典型的な出題であった。
第 3 問 B	B 長めの対話を聞き、図表を完成させる問題	6 点	ロンドンパラリンピックの参加選手数と獲得メダル数を聞き取る問題。数字を 2 つ同時に聞きとらなければならず、難しいと感じたかもしれない。また、固有名詞 Ukraine の聞き取りが難しかった。問題用紙に書かれている Ukraine という文字と、その発音である [ju:krɛɪn] が正しく頭の中で結びついたかがポイントだった。
第 4 問 A	A 短い英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	スピード、発音共に聞き取り易いものだった。とはいえ、断片的に聞き取れているだけでは対処できない。普段から長めの文を聞いて、それを頭の中で訳そうとするのではなく、正確に再生する練習が必要不可欠である。
第 4 問 B	B 長めの英文を聞き、質問の答えとなる英文を選ぶ問題	6 点	「ヘレンケラーと秋田犬」についてのエピソード。内容はわかりやすいものだったが、日本語の固有名詞の聞き取りがやや難しかった。途中で集中力が途切れないよう、普段からリスニングを意識した学習を心がけてほしい。